

トップメッセージ	NTTグループの概要	NTTグループのCSR	人と社会のコミュニケーション	人と地球のコミュニケーション	安心・安全なコミュニケーション	チームNTTのコミュニケーション	ガバナンス	GRIスタンダード対照表
地球環境に対する考え方	環境マネジメント	環境負荷の全体像	社会が低炭素化している未来へ	<b>資源が循環している未来へ</b>	自然と共生している未来へ			

## 資源が循環している未来へ

### 関連するGRIスタンダード

- 103-1,2
- 301-1,2,3
- 303-1,2,3
- 306-1,2,3,4,5

### 関連するSDGs



## 基本的な考え方

大量生産、大量消費、大量廃棄という「一方通行型社会」は、私たちに豊かで便利な生活をもたらしましたが、一方、膨大なごみを排出し、不法投棄や天然資源の枯渇の懸念など、さまざまな問題も生じました。その解決を図るためには、企業の事業運営や社会経済のあり方を見直し、循環型社会への転換を図ることが必要です。

資源が循環している未来の実現をめざし、NTTグループは、事業活動で消費するあらゆる資源について、使用量の削減(Reduce)、再使用(Reuse)、再資源化(Recycle)の「3R」を推進しています。

## 廃棄物の最終処分率

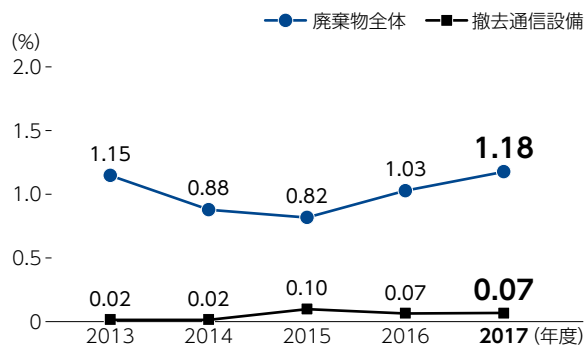
NTTグループは、2030年度の目標として、NTTグループが排出する廃棄物の最終処分率を1%以下とする、ゼロエミッションの達成継続を設定しています。

情報通信をはじめとするさまざまなサービスを提供し、事業を継続していくためには多くの資源が不可欠です。そのため、事業継続リスクの回避と、資源の循環の両面に資する目標として設定しました。

2030年度までゼロエミッションを継続していくことをめざし、引き続き3Rの推進に努めていきます。

なお、廃棄物のうち、撤去した通信設備については、2004年度以降、14年連続でゼロエミッションを達成しています。

■ 廃棄物の最終処分率



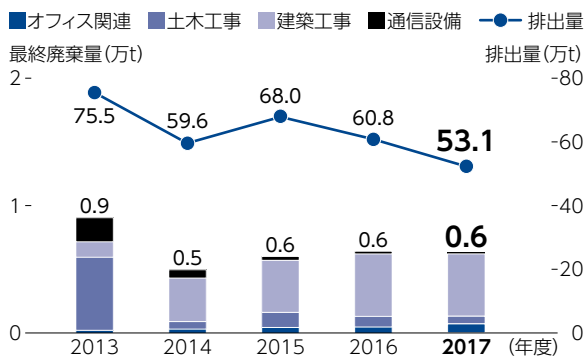
トップメッセージ	NTTグループの概要	NTTグループのCSR	人と社会のコミュニケーション	人と地球のコミュニケーション	安心・安全なコミュニケーション	チームNTTのコミュニケーション	ガバナンス	GRIスタンダード対照表
地球環境に対する考え方	環境マネジメント	環境負荷の全体像	社会が低炭素化している未来へ	<b>資源が循環している未来へ</b>	自然と共生している未来へ			

## NTTグループの廃棄物

### リサイクル・減量化・最終処分の実績

撤去通信設備 リサイクル	建築廃棄物 リサイクル	土木廃棄物 リサイクル	オフィス廃棄物 リサイクル	その他	減量化 (焼却)量	最終廃棄 (処分)量
22.0 万t	13.3 万t	12.9 万t	3.3 万t	0.8 万t		
リサイクル					52.4 万t	0.6 万t

### 最終廃棄量と排出量



### 有害廃棄物の取り扱い

NTTグループの事業から発生する有害廃棄物は、中継局の工事などで発生する廃棄物に含まれる廃石綿、PCB含有トランス・コンデンサなどの廃棄物、鉛バッテリーが該当します。これらは廃棄物の処理及び清掃に関する法律(廃掃法)などの法令を遵守し、適切に処理されており、国外への排出実績はありません。PCB使用機器やPCB汚染物についても、PCB特別措置法に則り、適正な保管・管理を徹底するとともに、安全かつ適正な処理を行っています。

NTTグループの事業(建物、橋梁)から排出された廃石綿等については、2017年度は約19トンであり、特別産業廃棄物として適切に処理しました。また、石綿含有産業廃棄物についても産業廃棄物として適切に処理しました。

### アスベスト排出量

